

## 日野精機株式会社

イチ押し!  
開発ヒストリー命を救うために、より遠くへ、より明瞭に  
災害に活躍する「音の備え」「防災スピーカー」。厳しい屋外環境の中でも  
高音質を発揮するスピーカー技術

東海・東南海・南海地震が同時に発生する「南海トラフ巨大地震」の被害について国の有識者会議がまとめた想定によると、地震による死者は最大で30万人を超えると公表された。ただし、迅速な避難により、死者数は8割減らせるとされ、避難体制の整備が急がれている。そんな中、あらためて脚光を浴びているのが、海岸部などの屋外に設置され、もしものときに危険を知らせ、適切な避難情報を多くの人々に伝える防災行政無線用スピーカーだ。日野精機は1978年の設立以来、防災行政無線用スピーカーを製造、公共空間などで使用する音響機器のトップメーカーに供給してきた。

「防災行政無線用スピーカーには、聞き取りやすく、遠くまで届く明瞭な音質、強い風雨や大きな気温差、強い日差しなど屋外の厳しい設置環境でも影響を受けない丈夫さなどが求められる。当社では、性能の向上を図りつつ、安定した

品質のものづくりを徹底してきた」と福田弘社長は話す。

日野精機のスピーカーは防災行政無線用以外にも、さまざまな場面で活躍している。学校の校庭などに設置されている放送用スピーカー、選挙演説でおなじみの選挙カーの車載用スピーカー、踏み切りの警告音を発するスピーカーの多くも同社製である。また、ダム放水を知らせるために5km先までサイレンが届く最大で1200W出力できるスピーカーも製造している。

大震災で明らかになったニーズに  
従来の2倍の音達力で応える

東日本大震災以降、防災行政無線用スピーカーの需要は大幅に増加しているが、その一方、新たな課題も浮かび上がってきた。東日本大震災で防災無線によつて多くの人が避難できたが、なかにはスピーカーが遠くて音量が小さかったり、複数の音源の音が重なり合うなどの理由で、放送内容を聞き分けることができなかつたという。1人でも多くの命を救うためには、より遠く



長年の技術が生きる「防災行政無線用スピーカー」

スピーカーを縦に4台並べることで広域の音声伝達を可能にした。従来の屋外スピーカーの2〜3倍遠くまで音が届き、500m以上先でも放送内容が明瞭に聞き取れるようにした高性能機だ。すでに各地の自治体で試験が行われ、導入が始まっている。

スピーカー製造技術を応用し  
新規事業・新分野にも積極的に進出

防災行政無線用スピーカーは設置環境に応じたカスタマイズ（顧客の注文に応じた改造）が必要となることが多い。鳥が巣を作りやすい場所では防鳥ネットが欠かせない。海に近い場所では塩害に強い素材に変えなければならぬ。色、消費電力の変更など、顧客の要望は多岐にわたる。当社では手問のかかる注文にも迅速に対応し、高い顧客の満足を得ている。それは、創業以来、ほとんどの部品を社内製造し、長い年月をかけて機械設備や人材を充実させてきた



鉄道車両（運転席）用シートを事務用チェアに改造した試作品



今年の秋に完成した本社工場

からだ。当社ではこの強みを生かして、スピーカーのカスタマイズ事業を展開、今では大きな事業の柱となるまでに成長している。

「スピーカーの中にはさまざまな素材に関するノウハウや技術が詰まっている。電子基板やプラスチック成型、アルミのダイカスト製造、プレス加工など、数え上げるときりがない。当社はこのスピーカーによつてずいぶん成長した」と、福田社長は同社の幅広い加工技術を説明する。

当社ではこれらの技術を他の分野にも活用している。医療機器の外装や筒体、トラクターのエンジン部品、繊維加工機械の部品、自動車のシートなどを製造。従来の事業とは全く異なる分野に進出している。

カスタマイズ事業の強化、新分野への進出の始まりは15年ほど前にさかのぼる。スピーカーの多くを海外生産に切り替えるという取引先の動きがきっかけだった。縮小もやむなしという意見もあったが、福田社長は大きな経営環境の変化をチャン

くまで、クリアな音質で音が届くようにしなければならぬ。

この課題解決のために、当社が今、力を入れているのが「ホーンアレイスピーカー」だ。車載用スピーカーの音響技術を応用し、角形ホーンス

と捉えて、新たな事業に挑み成果を上げたのだ。

「4M」の活動を通じ高い品質の  
安定した生産技術体制を保持

主力のスピーカー生産や新規事業への挑戦を支えているのは、高い品質を保つ安定した生産技術体制だ。この体制を維持するために、同社では独自に「4M」という活動を実施している。4Mとは、「マシン（機械）」、「マテリアル（材料）」、「メソッド（方法）」、「マン（人）」のこと。ものづくりに欠かさない要素の4Mを絶対に変えず、万が一、変える場合には理由と変更点を書面で申請し、許可を受けて行うことを徹底させている。4Mを厳格に管理することで、品質を保ち、トラブルが発生した場合にも原因を確実に特定することができる。

「我々のつくるものは人命に関わる製品だから、納品すれば終わりではなく、製造者責任はどこまでもついでまわる。だから、品質だけは譲ることができないと、従業員に対し意識の徹底を行っている。その上で、いつも5年先を意識してあらゆる視点から幅広い業界や製品に関心をもち、当社にできることを見つけたら果敢に挑戦していく。当社のテレビCMでは『発想無限大』とうたっているが、そのキャッチコピーの通り、限らない発想力を追求する創造的企業でありたい」と福田社長は熱く語る。

確かな技術を基盤に、日野精機は新たな成長のステージに踏み出す。

日野精機株式会社 <http://www.hinoseiki.com/>

代表取締役社長 福田 弘氏

力がなければ、人を支えられない。  
人望がなければ、人に支えてもらえない。  
経営トップとして人の御縁を大事に  
人を支え、人に支えられる人になりたい。



Voice

Profile

- 本社/滋賀県蒲生郡日野町西大路2140
- 設立/1978年
- 資本金/2,320万円
- 従業員数/95名
- 事業内容/業務放送機器・各種拡声器及び関連機器・鉄道車両内放送機器・業務放送機器収納ラックの設計及び組立加工、アルミ・亜鉛ダイカスト製造加工、冷間鍛造、その他各種機械切削加工、プレス板金、溶接、仕上加工、各種プラスチック成型加工、溶剤・粉体塗装加工